

人口減少対策

山梨県は、出生率の低下を受け、令和5年度からオール山梨で人口減少対策の取り組みを本格的に開始しました。県民それぞれのライフステージに寄り添った切れ目のない支援を実現していきます。

■問い合わせ先
(人口減少対策全般)
人口減少危機対策企画グループ
TEL 055-223-1845
(プレコンセプションケア)
子育て政策課
TEL 055-223-1425

若者の自己実現への支援

本県の人口は平成12年の約89万人をピークに減少を続けており、国勢調査を基準とした推計人口によると、令和6年12月には79万人を下回りました。人口減少は、消費市場の規模縮小や深刻な人手不足などさまざまな面で問題を引き起こし、地域で暮らし続けることを困難にすると想定されます。

人口減少対策で特に重視するのは少子化対策です。少子化の背景には、子どもを持つ世帯の年収水準の変化があると考えられます。20年前には、年収300万円から350万円くらいでも子どもを持つと考えていたものが、現在は、450万円から500万円程度の収入がないと子どもを持つとしない傾向があります。今の子育て世代は、日本経済が低迷期に入った「失われた30年」の中で育ったため、将来の所得向上への期待感が持てず、「今現在の収入が十分でなければ子どもは持てない」という意識に変わっていると推測されます。

そのため、若者が「がんばれば報われる」「豊かになれる」という将来への確信を持ち、深めていくことが何より重要となります。そこで、県では働く若者のスキルアップが企業の収益アップにつながり、賃金アップとして還元される「スリーアップ運動」に取り組んでいます。(※詳細は16ページ参照)

また、経済的な不安の解消のほか、若者の自己実現の選択肢が開かれている社会の実現を目指し、多様な選択肢の中から自分らしいライフデザインを考え、将来の妊娠を考えながら自分たちの生活や健康に向き合う「プレコンセプションケアの推進」などの取り組みを進めています。

加えて、若い世代に対して人口減少危機への理解を深めるとともに、オール山梨で取り組む機運の醸成を図るため、県内の各分野で活躍する方々に「人口減少危機対策アンバサダー」に就任してもらい、当事者目線での情報発信を推進しています。



人口減少危機突破共同宣言を行う関係者



勉強会に参加するアンバサダー

プレコンセプションケアの推進

将来の妊娠・出産に備えて健康管理を行うことをプレコンセプションケア(プレコン)といいます。県では若い世代が妊娠・出産に関する正しい知識を持ってもらえるようプレコンセミナーやプレコン健診の実施をしています。セミナーでプレコンについて、正しい知識を普及するとともに、職場の健康診断や提携する医療機関等において、将来の妊娠に備えた現在の健康状態を調べるプレコン健診を行い、医師からの助言が受けられます。自治体において、企業など職場での健康診断と地域の医療機関の両方でプレコン健診が受けられるのは全国初の試みとなります。



講師の話に耳を傾けるセミナー参加者

少人数教育の推進

■問い合わせ先 義務教育課 TEL 055-223-1755

山梨県は、子どもたち一人ひとりに向き合ったきめ細かな質の高い教育を提供することを目的とし、国の基準である35人学級を大きく上回る「25人学級」を、全国に先駆けて公立小学校に導入しています。令和3年度に小学校1年生に導入し、その後学年進行に伴い、令和6年度には小学校4年生まで拡大しました。

小学校6年生まで拡大

25人学級の導入は、子どもたちへ丁寧な指導ができること、教員の負担軽減につながっていることから、学校現場だけではなく、保護者や地域の方々からも高く評価されています。そのため、小学校5年以降についても25人学級を推進していきます。具体的には、令和7年度に小学校5年生、令和8年度に小学校6年生に拡大し、小学校1年生から6年生まで全ての学年で25人学級を導入する予定です。

また、25人学級の影響が及ばない市町村に対しては、地域の強みを生かした特色ある教育活動に補助金を出し、教育の充実を図っています。

具体的な例として、自立学習者の育成を目指す「自由進度学習」があります。これは、学習計画表に基づいてICTを活用しながら自分のペースで学ぶ活動を支援する取り組みです。鳴沢村や道志村では、大学教授のアドバイスを受けながら、子どもたちが自ら問いを見つけ、解決に向かう「学習者を主体とした授業」の実践・研究を進めています。

今後も、子どもたちが夢や希望に向かってチャレンジできる教育環境の整備を進めていきます。

	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
令和3年	25人学級					
令和4年		25人学級				
令和5年			25人学級			
令和6年				25人学級		
令和7年					25人学級	
令和8年						25人学級



25人学級が導入された小学校1年生の授業

教員不足の解決に向けて

学校の教室数などが原因で、25人学級の導入が難しい場合は、学級を分割する代わりに教員を追加で配置するアクティブクラスを導入しています。25人学級と同様に、教員1人当たりの子どもの人数が少なくなるため、きめ細かな指導が可能になります。

少人数学級の推進には、教員の確保が欠かせません。山梨県では、「教員になりたい」、「教員を続けたい」と思う人を増やすため、処遇改善や働き方改革といった教員の魅力を高める取り組みを進め、県内外にPRしています。



教員の魅力発信動画(県公式YouTubeチャンネル「山梨チャンネル」で公開中)